


# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 静岡県立清流館高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	静岡県立清流館高等学校 (1学年 206名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( LHR の時間 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピアンに接し、直接話を聞くことにより、オリンピック・パラリンピックについての理解を深めるとともに、共生社会の実現に向けた基本的な考え方を身に付ける。
5 取組内容	<p>リオデジャネイロ・パラリンピック大会で、4×100mで銅メダリストとなった佐藤圭太氏（トヨタ自動車 出身：藤枝市立葉梨中学校～焼津中央高校～中京大学）を講師に招聘した。</p>  <p>佐藤氏は、15歳時に右下肢にユーイング肉腫を患い、膝下15cmを切断。常時、義足を着用している。</p>

今の自分と同じような時期に、右下肢を切断する経験をし、その後リハビリをはじめとする数多くの試練を乗り越え、社会人として、パラリンピアンとして、なにより、一人の人間として、たくましくしなやかに生きている同氏の講話を聴くことで、①スポーツを通じてインクルーシブな社会（共生社会）の一員としての意識を高める。②夢や目標を持ち、挑戦することの素晴らしさを学ぶ。③障害者やパラスポーツに対する理解を深める。ことを目標とした。



サッカー少年だった自分を、ある日突然襲ったユーイング肉腫について語る佐藤氏。淡々と話す中にも、与えられた事実を受け止め、前向きにとらえて生きていこうとした姿勢が強く感じられる瞬間でした。



義足の付け方をわかりやすく説明してくれている様子。



技術の進歩と技師装具士の方の努力により、高剛性と軽量化を実現した義足等が生み出されていることを説明していただきました。





佐藤氏と1年生全員とで集合写真を撮影しました。



講演会の後で、場所を移して、陸上部の生徒からの質問にも快く答えていただきました。



陸上部の生徒とともに記念撮影しました。

6 主な成果	<p>前日には、体育大会が開催された。コロナ禍で様々な制約がある中で、生徒を中心に充実した大会を運営出来た。一つのイベントを成功に導くためには、「する」「見る」「支える」のすべての機能が必要だと実感した翌日の講演会だったこともあり、スポーツへの理解がより深まると同時に、健常者であることの幸せを再確認するとともに、障害を持つ人の立場を理解すること。同情するのではなく、共生するという高次の営みを考える良い機会となった。</p> <p>①スポーツを通じてインクルーシブな社会（共生社会）の一員としての意識を高める。②夢や目標を持ち、挑戦することの素晴らしさを学ぶ。③障害者やパラスポーツに対する理解を深める。という目標を達成できた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>本来は、保護者や地域の方々に広く周知して、聴講する機会を設けたかったが、新型コロナウイルス感染防止対策として、1学年のみの開催とした。</p> <p>また、緊急事態宣言の発令により、直前まで開催について調整を続けたが、佐藤氏御本人をはじめ、関係機関の好意的な理解のもとで無事に開催できた。</p>
8 主な課題等	<p>スポーツ庁の委託事業でもあり、積極的に報道提供したが、新聞社の取材はなかった。こうした有意義な事業にスポットを当てるためにも、学校側からと同時に、開催日を把握している県からも発信力を強めていただけるとありがたい。</p> <p>課題というより、昨年からのコロナ対策での少人数開催となっているため、講演者ならびに聴講者双方にとって、のびのびと開催できるように終息を願うばかりである。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>3年後のパリ大会に向けて動き出した、東京オリパラのメダリストにも、今回参加できずに奮起を期しているアスリートにも光をあてて、応援することが大事だと思う。東京オリパラも、様々な制限がある中では、大成功を収めたと思うが、自国開催といっても、無観客だったり、盛り上がりには欠けたことは否めない。</p> <p>応援する側（国民）が、息長く応援し続けるための仕掛けが必要だと感じた。</p> <p>そうした一環として、学校にこのような機会が与えられるのであれば、継続について考えていきたい。</p>